

2011年度協約・協定改訂第1回団体交渉 社員の声を代弁し安心して安全な職場を目指す！

8月17日、本部は2011年度協約・協定改訂第1回団体交渉を開催し、今次協約・協定改訂交渉に臨むJR東海労の主張をしました。また、会社からは東日本大震災や海外景気の下振れ懸念、国内の政治動向を理由に厳しい経営環境にあることを強調した基本姿勢が述べられました。

JR東海労主張(要旨)

東日本大震災により日本の経済は大打撃を受けたが、JR東海の状況は社員の努力により現在はほぼ昨年並みになっている。会社として、社員の努力にしっかりと実をもって応えるべきである。

昨年、東京都労働委員会は会社が基本協約を締結することに条件を付けたことは不当労働行為と認定した。会社は、改めて反省をすべきである。

職場では基本協約をはじめ、職場環境に社員は不満に満ちている。

安全問題ではATS-PTに関わる問題や震災時における新幹線の運行に関する問題等。経営に関しては、労働組合を一切無視したりニア中央新幹線の推進。東日本大震災を理由にした様々な労働環境の悪化。JR東海労の組織破壊を狙った専任社員雇用条件や専任社員等に対する高齢を加味しない冷たい対応。ベアゼロや昇給額の逡減でやる気を損ねる人事・賃金制度。本人の意思を無視した運輸系統の社員運用。マニュアルの強要を第一とする誤った職場管理等である。社員が心の病や自殺が未だに発生している。それは、会社の責任を社員に転嫁しているからである。社員はJR東海を発展させる努力をしている。努力を認めないから労働組合の要求にも無関心であり、その要求を認めようもしない。このような状態ではJR東海に未来はないと私たちは危惧する。したがって、将来にわたって安全で安心して働ける労働条件と職場環境を整えるために、今こそ真摯に社員の声を代表する労働組合の意見を聞き、不満の解消、現状の改善を前提とした議論をすべきである。